



生物多様性上重要な里地里山として環境省に選ばれた倉輪・釜牟田

# 消えゆく 里山の生き物たち

豊かな自然に恵まれていると言われる綾町でも、多くの照葉樹林が人工林に姿を変え、野生の生き物たちと共存してきた里山の環境が失われつつあります。いつの間にか姿を見ることができなくなった生き物も少なくありません。

平成24、25年度に実施した「綾ユネスコエコパーク生物生育・生息基礎調査」では、絶滅危惧種を含む多くの動植物が確認されました。その中には、照葉樹林の中ではなく、むしろ町内に残されている伝統的な里山環境に生き残っている種類が数多くいることが分かりました。希少な生き物が多数報告された一方、その生き物たちが置かれている深刻な状況も明らかになっています。

## 絶滅が心配されるドジョウ

メダカやタニシ、ゲンゴロウ類は、かつては水田やため池に普通に見られた水生生物ですが、宅地化や農地整備、農薬の影響などにより、今ではその姿

を見ることは珍しくなっていました。

水生生物が減少している最も大きな原因は、コンクリート化された用水路が増えたことと、田んぼと用水路・河川のつながりが断絶されたことです。メダカやドジョウ、ナマズなどは、春先に川から水路をたどり、水が張られた田んぼで繁殖するものが多く、田んぼと水路との連続性が途絶えてしまうと生きていくことができません。

特にドジョウについては、綾町内での生息地が次々に消えつつあり、近い将来の絶滅が心配されています。メダカについても、地域間の遺伝的な違いが明らかになってきており、生息環境の消失に加え、飼育個体の放流などによるその土地本来のメダカの遺伝的多様性が失われることも問題となっています。

## 草原の減少とともに姿を消した希少な植物

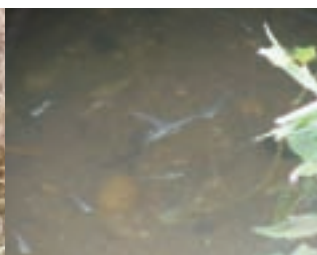
綾ではかつて馬の生産が盛んで、放牧地や採草地などの草原



オキナグサ



生き物の住めない三面張りの水路



メダカ



コガタノゲンゴロウ





ドジョウ





あぜ焼きなどが行われることにより草原の植物が残っていきま

ユネスコエコパーク推進室では、綾町内の里山環境の生き物分布調査を実施すると共に、役場裏のピオトープ「綾トープ はっけんじま」で、生き物の観察会や水辺・草原環境の希少な動植物の保護増殖活動を行っています。

今後は、町民参加型の里山の生き物調査や、希少な生き物の生息環境を守るための実践的な保全活動を計画しています。

私たちの生きる基盤である豊かな自然や自然との共生のあり方を見つめ直すためにも、皆様のご理解とご協力をお願いします。

かつての草原の名残が確認できる場所もあります。綾川流域の河川堤防や周辺の田んぼのあぜでは、あぜ焼きや草刈りにより草原環境が維持され、サワオグルマやアマナ、イヌハギ、リンドウなどの草原の植物が残されています。草原に生える植物

が各地にあったことが分かっています。草原は、放置すると次第に林に変化してしまいうため、火入れや刈り取り作業によって維持管理されてきました。

しかし、昭和25年ごろから進められた人工林拡大や、畜産の形態変化に伴う人工牧草地への転換などにより、草原は急速に減少していきました。かつての草原には、日当たりがよく乾燥したところを好むオキナグサやノヒメユリ、ヒナヒゴタイといった全国的にも希少な植物が生育していましたが、これらの種も草原の減少と共に姿を消していきました。

※里山とは  
里山は、原生的な自然と町との中間に位置し、集落とそれを取り巻く雑木林、それらと混在する田んぼや畑、ため池、水路、河川、草原などで構成される地域です。

綾から姿を消そうとしている里山の生き物たちの声に耳を傾け、本当の意味での「豊かな自然」を残すために、私たちに何ができるのか、皆で一緒に考えてみませんか？

将来にわたって「自然と共に生きる綾町」であり続けるためには、私たちは何をすべきなのでしょうか。

耳を傾けてみよう  
里山の生き物たちの声に

をエサとするシルビアシジミやゴイシジミなどの希少なチョウにとっても重要なすみかとなっています。



ゴイシジミ

サワオグルマ

アマナ

ヒナヒゴタイ

ノヒメユリ



# ユネスコエコパーク通信

## 夢楽人バザールWithふれあい綾もりの市を開催しました！

「夢楽人バザール With ふれあい綾もりの市」は2月28日、綾城で開催されました。

会場には、かき揚げうどん、カレー、コーヒー、ベーグル、パン、クッキーなどを販売する飲食店や、自然生態系を生かした農法で作られた野菜、アクセサリーなどの小物、雑貨のお店など38店舗がずらりと軒を並べました。

さらに、木のおもちゃで遊べる木育コーナー、綾城内を散策するクイズラリー、もちつき、手裏剣投げ、どんぐり鉄砲、引き馬体験といった体験コーナーもあり、多くの親子連れが楽しんだほか、「Whoo pin with 宮崎ゴスペルクワイヤ」「C・Flat」によるステージライブも行われ、たいへん盛り上がりしました。

来場者からは「綾町産の野菜を安く買うことができてよかった」「綾町の食材を使った料理はおい

しいですね」「クイズラリーが楽しかった」などの感想を聞くことができました。天気もよく、雰囲気もあたたかい春のイベントになりました。

次回の「ふれあい綾もりの市」は、5月に行う予定です(綾男山まつりと同時開催)。詳しくは決まり次第お知らせします。ぜひ足をお運びください。また、出店者も募集しています。

■問い合わせ先／ふれあい綾もりの市実行委員会(ユネスコエコパーク推進室内)  
☎ 77-3482



### コラム

## ニホンヒキガエル

日本産のカエルの中では最大級のヒキガエル。大きいもので約17cmもあります。



水が少ない林の中でも暮らせますが、夜行性で昼間は石の下や樹洞に隠れています。雨の降った日には、エサとなる昆虫やミミズを探して歩き回る様子が観察できます。

体の表面には、皮膚呼吸の表面積を最大にするためのイボが多数あります。皮膚には毒があり、昔の人はその粘液を「ガマの油」と称して薬にしたと言われています。自然界にも、本種を食べて体に毒を溜め込み活用しているヤマカガシという毒ヘビがいます。

## 森林セラピーの窓口がかわります

[問い合わせ・申込先]

3月31日(木)まで／農林振興課・綾町森林セラピー推進協議会事務局 ☎ 77-0100

4月1日(金)から／ユネスコエコパーク推進室 ☎ 77-3482